PLOW
OutdoorPower & Garden Tools

PLOW
OutdoorPower & Garden Tools

歩行型芝刈機

PHG470

取 扱 説 明 書

©2011 株式会社 ホンダウォーク

2011年10月

ご使用の前に、必ず、この取扱説明書をお読みください。

お買い上げありがとうございます。
お買い上げいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、
ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました
販売店にお気軽にお申しつけください。

作業前に点検、調整しましょう

この取扱説明書は、お買いあげいただいた芝刈機で安全かつ能率的な芝刈り作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は
▶芝刈り作業をするときは、必ず携帯してください。
▶本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
▶紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより写真、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

■これだけはぜひ守りましょう ―― 4
安全ラベル ―― 7
■各部の名称と取扱いをおぼえましょう ―― 9
始動グリップ ―― 11
スロットル レバー ―― 11
ティクラー ―― 11
刈刃クラッチ レバー ―― 12
走行クラッチ レバー ―― 12
刈取り高さ調整レバー ―― 13
収納袋 ―― 14
■作業前に点検、調整しましょう ―― 15
作業前の点検 ―― 15
燃料の点検 ―― 16
エンジン オイルの点検 ―― 18
エア クリーナ（空気清浄器）の点検 ―― 19
刈刃の点検 ―― 20
各部の締付けの点検 ―― 22
収納袋の点検 ―― 22
■エンジンのかけかた ―― 23
■運転操作のしかた ―― 25
1 刈取り高さの調節 ―― 25
2 エンジン始動 ―― 26
3 運転操作 ―― 26
4 刈取り作業 ―― 27
5 収納袋の脱着 ―― 29
■エンジンのとめかた ―― 30
■定期手入れを行いましょう ―― 31
定期点検整備項目 ―― 31
■点検・整備のしかた ―― 32
エンジン オイルの交換 ―― 32
エア クリーナ（空気清浄器）の清掃・交換 ―― 34
点火プラグの清掃、調整、交換 ―― 35
走行クラッチ ケーブルの調整 ―― 36
刈刃クラッチ レバーの作動点検 ―― 37
■長期間使用しないときの手入れ ―― 38
■故障のときは ―― 40
■主要諸元 ―― 41
■同梱部品の組付けかた ―― 42

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

⚠警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

・この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
・間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
・適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
・本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
・過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
・日常点検、整備を行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気の良い場所で行ってください。
・燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
・燃料はこぼさないように注意して、給油限界位置を超えないように補給し、燃料タンクキャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。
・屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
・カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
・誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
・衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないように作業に適した服装をし、防護メガネ、作業に適した靴などを用いて作業してください。

⚠警告

・夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
・放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
・土や砂利などの上では刈刃を回転させないでください。石などの異物が飛び出すおそれがあります。
・収納袋を取りはずして作業しないでください。刈取った芝や小石などが飛び出し大ケガをするおそれがあります。
・収納袋を取はずすときは、エンジンを停止してください。
・本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
・本機を使用する前に収納袋を点検してください。すり切れたり穴のあいている物、また縫い目がほころびている物は新品に交換してください。
・外気温が 4℃以下になる様な環境で使用すると、防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。
・本機は芝刈り作業以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
・芝が濡れていたり、雨天のときは芝刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

●作業中

・エンジンが始動すると同時に刈刃も回転します。手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤ってさわると大ケガをします。
・作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。作業範囲内に人や動物などを近づけないでください。もし人や動物が近づいたら作業を停止してください。
・作業中はハンドルをしっかり持ち足元に注意して行ってください。転倒するおそれがあるので走らず本機の速度に合わせ作業してください。
・傾斜地での芝刈りは、上下方向でなく、横方向（等高線方向）に行ってください。また急な斜面では作業しないでください。転倒するおそれがあります。

⚠警告

・本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。

・エンジン運転中は、刈取り高さの調整をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。

・作業中本機や刈刃が障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するために点火プラグ キャップをはずし (35 頁参照)、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。

・過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。

・エンジンをかけたまま本機を芝の上に放置しないでください。マフラの熱で芝をこがしてしまうばかりでなく、誤って操作されると思わぬ事故の原因となることがあります。

●作業が終わったら

・各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。

・長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレータの燃料を抜き取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。

・車への積み降しは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

・運搬時には、転倒や落下しないよう確実に固定してください。また燃料を抜いてください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全て読んでからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。

スロットル レバー

エンジンの出力を調整します。

最高出力

最低出力

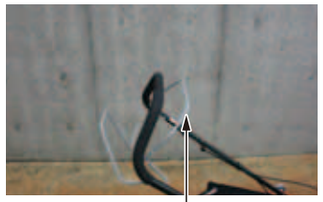
ティクラー

エンジン冷却始動時に燃料の混合比を一時的に高め、エンジンをかかりやすくします。

刈刃クラッチ レバー

エンジンを始動、停止、刈刃を回転、停止するときに操作します。
刈刃クラッチ レバーをハンドルと共に握ると、エンジンを始動できます。
エンジンが始動すると刈刃が回転します。

停止



エンジンを始動できる

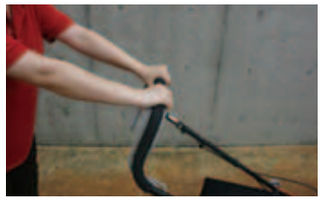
刈刃クラッチ レバー

走行クラッチ レバー

刈刃クラッチ レバーを握っているときに、走行クラッチ レバーを握ると前進し、放すと停止します。

停止

前進

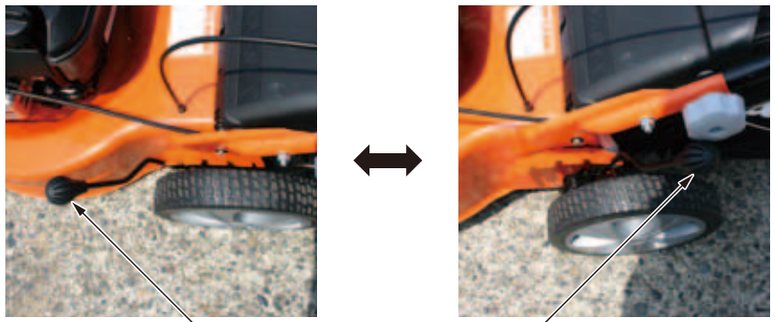


走行クラッチ レバー

刈取り高さ調整レバー

芝の刈取り高さを調整するときに操作します。レバーを操作して位置を変えることによって 5 段階に刈取り高さを調整できます。(25 頁参照)

刈取り高さ調節 レバー



低い

高い

刈取り高さ調整レバー
(左後輪部)

収納袋

刈取った芝を収納する袋です。

作業前に点検、調整しましょう

⚠警告

- 点検は平坦な場所で本機を水平にしてエンジンを止め、誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップをはずしてください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなく作業者や付近にいる人に大ケガをさせるおそれがあります。
- 点検整備や保管時に本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れが起きる場合があります。漏れた燃料が引火することがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

本機のまわり	燃料の量（17 頁参照）、エンジン オイルの量（18 頁参照）は規定量はいっていますか。 燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。 エンジンまわりのゴミ、枯れ草などはないですか。
レバーの作動	引っかかりはないですか。 スムーズに作動しますか。 （走行クラッチ レバー、刈刃クラッチ レバーの点検・調整は 36、37 頁参照）
刈刃の状態	刈刃締付けボルトにゆるみはないですか。 刈刃に割れ、欠損、曲がり、摩耗はないですか。
各部の締付け	各ボルト、ナットにゆるみはないですか。
配線、ケーブル類	被覆の破れや切れはないですか。 配線、ケーブルのはさまりはないですか。
エンジンの始動、停止	点火プラグ キャップを確実に取付け、エンジンを始動させたときに異音はないですか。 エンジンは確実に停止しますか。
その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店にお申しつけください。	

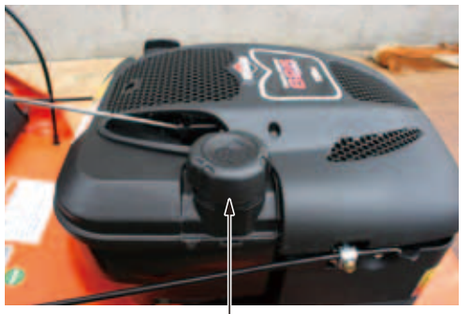
燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
・ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を越えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点　検

燃料給油キャップを外し、燃料があるか点検します。
少ない場合は補給してください。



燃料給油キャップ

補　給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
● 燃料給油キャップを外し、給油限界量を越えないように補給します。
● 給油後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
・ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

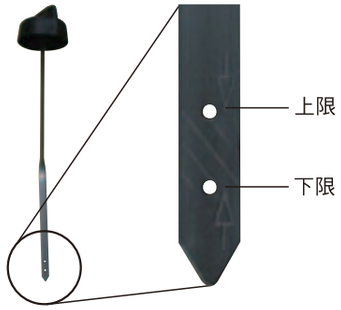
エンジンオイルの点検

点　検

オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。
油面が下限を下まわっているときは、上限までオイルを補給してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は 32 頁参照)

オイル点検時はキャップを閉め込まない。

この位置で抜き取る。



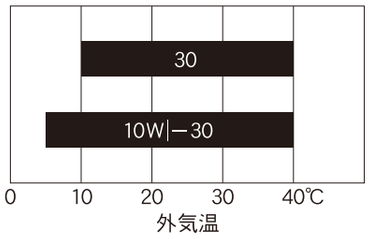
オイル給油キャップ／レベル ゲージ

補　給

・オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限以内まで補給します。
規定量：0.6L

・推奨オイル
(4 ストローク ガソリン エンジン オイル)
ウルトラ U 汎用(SAE10W-30)または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

エンジン オイルは外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

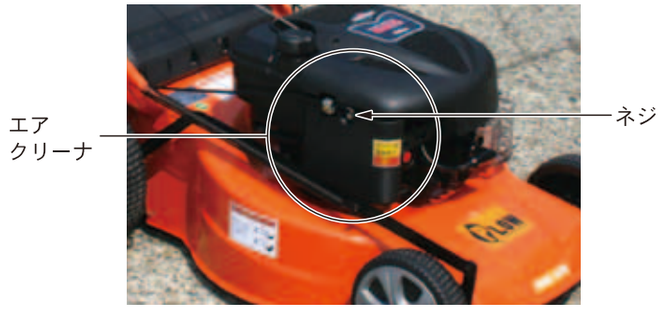
エア クリーナ（空気清浄器）の点検

点　検

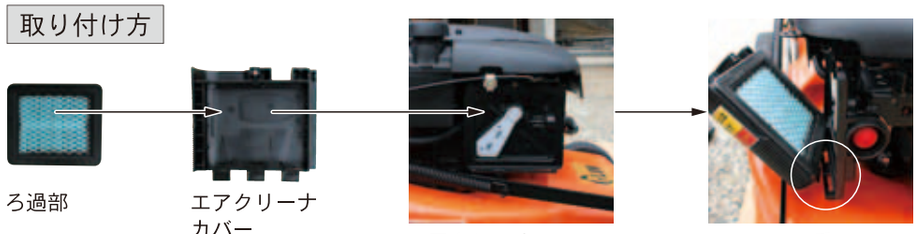
1) エア クリーナ カバーの上のネジを外し、エア クリーナ ハウジングからカバーを取外します。
2) エア クリーナ ハウジングからろ過部を取外し、ろ過部の汚れを点検します。
3) 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃または交換を行ってください。
(清掃方法は 34 頁参照)

取扱いのポイント

・エア クリーナ カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エア クリーナ カバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。



取り付け方



エア クリーナハウジングにろ過部を入れ、下部の爪を穴に引っ掛けてきちんとはめる。最後に上部のネジを取り付ける。

刈刃の点検

⚠警告

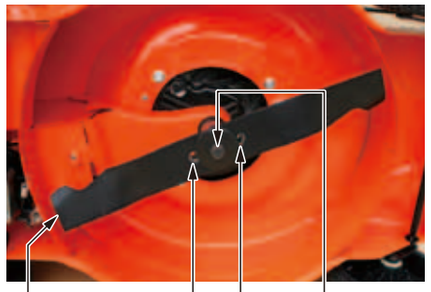
・作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当るなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。交換するときはお買いあげ販売店にご相談ください。
・刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグ キャップをはずしてから厚手の手袋を装着して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。

1) エンジンを停止し、点火プラグ キャップを外します。
2) 本機を左側に倒します。

⚠警告

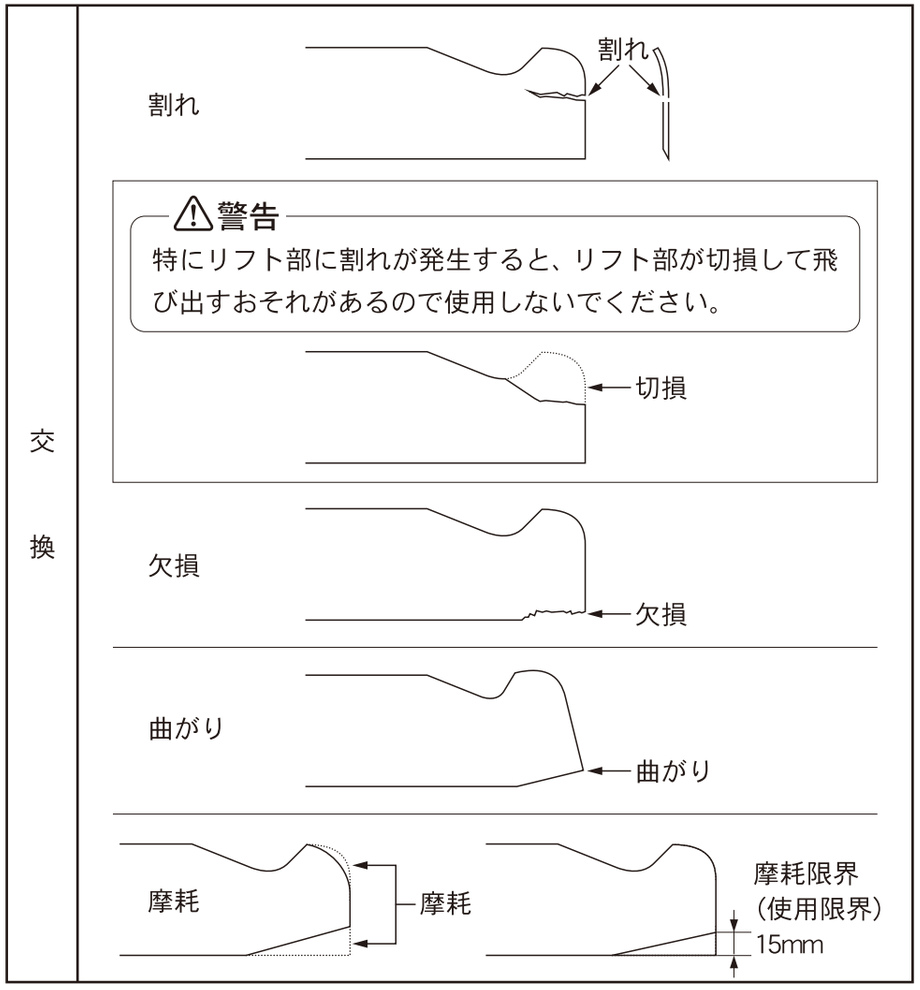
本機を傾けるとガソリンが洩れる場合があります。
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンがこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

左側を下に倒します。



3) 刈刃の割れ、欠損、曲がり、摩耗を点検します。

・刃先が摩耗して丸くなってきたらお買いあげ販売店で研いでください。
・下図のように異常な状態になっていたらお買いあげ販売店で交換してください。



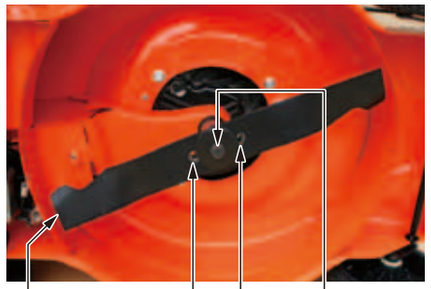
・乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の磨耗が早いので頻繁に点検してください。

各部の締付けの点検

⚠警告

刈刃締付けボルトの点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップをはずしてから厚手の手袋を装着して行ってください。

- 刈刃ホルダ締付けボルト、固定ガイドの位置は完全ですか。
- ハンドル固定ツマミのゆるみはないですか。



収納袋の点検

⚠警告

収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷している場合は新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。

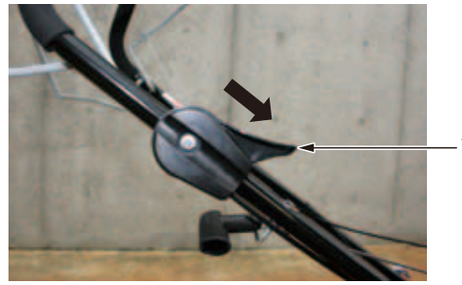
1) 目詰まりがないか点検します。収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。水洗いし十分に乾燥してから使用してください。
2) すり切れ、破れ、縫い目のほころびなどがないか点検します。
3) 確実にセットされているか確認します。(脱着方法は 29 頁参照)

エンジンのかけかた

⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

1) スロットル レバーを最高出力側の位置に合わせます。



最高出力側に合わせる

≪エンジンが冷えている時は≫

⚠注意

スイッチを押し込んでいる間はガソリンがずっと溢れ続けるので、押し過ぎるとガソリンを溢れさせ過ぎてしまいます。そうなると、逆に始動が困難になったり、最悪の場合にはキャブレターの外にもガソリンが溢れて機体火災の可能性が出てきます。ティクラー使用は一度に 3 回までの押し込みにしてください。

●エンジンが冷えている時は、ティクラーを 3 回押し、始動してください。

取扱いのポイント

エンジンが外気温と同じかそれよりも冷えている状態（冷間時）、または、エンジン休止によりエンジン本体の温度が低下した時はエンジンがかかりづらい時があります。このような時に、ティクラーを規定回数ご使用ください。

2) 刈刃クラッチ レバーを握ったままの状態で、芝刈機のハンドルをしっかり押さえ始動グリップを引き、重くなったところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

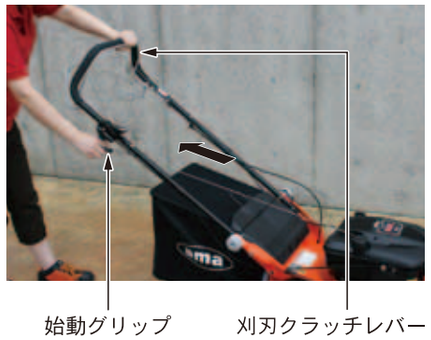
⚠警告

エンジンを始動すると刈刃が回転します。石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがありますので、人身および物損事故が起きないよう始動時には十分注意してください。

取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

- エンジンの始動は、芝高さが低く芝刈機が安定する平坦な場所で行ってください。
- 始動グリップを引くとき、後方に人がいないか確認してください。



3) 2 ～ 3 分間暖気運転を行います。

- 暖気運転を行うことは、エンジン各部にオイルをゆきわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。

取扱いのポイント

芝の上での暖気運転はさけてください。マフラなどの熱により芝が変色することがあります。

運転操作のしかた

芝刈り作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり芝刈り作業をしてください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

1 刈取り高さの調節

⚠警告

刈取り高さの調節をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップをはずしてください。

刈取り高さ調整レバーにより 5 段階(約15～69 mm) まで調整ができます。
調整レバーは左側後輪にあります。

≪調 整≫

1) ハンドルに手をかけ、本機を少し持ち上げてください。
2) レバーをタイヤ側に引き、調整溝に入れてください。

- 伸びた芝を刈取る場合は最初に刈取り高さを高くして刈取り、次に刈取りたい高さまで低くして刈取ってください。

取扱いのポイント

- 刈取り高さ調整レバーは前輪、後輪とも同じ位置にしてください。芝刈機が不安定になったり、仕上がりが不均一になることがあります。
- 確実に調整レバーが溝とかみ合っていることを確認してください。
- 芝地の条件により、刈り取り高さは多少変化することがあります。

2 エンジン始動

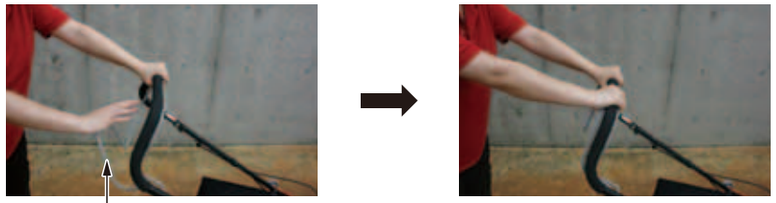
エンジン始動要領に従ってエンジンを始動します。(23、24 頁参照)

取扱いのポイント

。刈刃クラッチ レバーとハンドルはしっかり握ってください。
・刈刃の回転に異常がある場合は、お買いあげ販売店で、点検・修理を受けてください。

3 運転操作

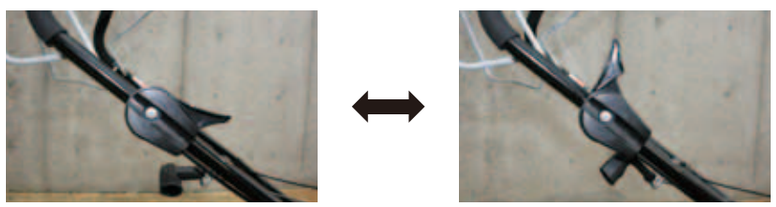
1) 走行クラッチ レバーを前方に操作すると本機が自走します。作業中は、走行クラッチ レバーを刈刃クラッチ レバー、ハンドルと一緒に握ってください。



⚠注意

本機からはなれる場合は必ず刈刃クラッチ レバーをはなしてください。

2) スロットル レバーで本機の走行速度と芝の刈刃の回転数を調節します。芝の状態、作業者の歩行速度に合わせて操作してください。走行中の速度調節も可能です。



最高出力
最高車速位置
最高刈刃回転数位置

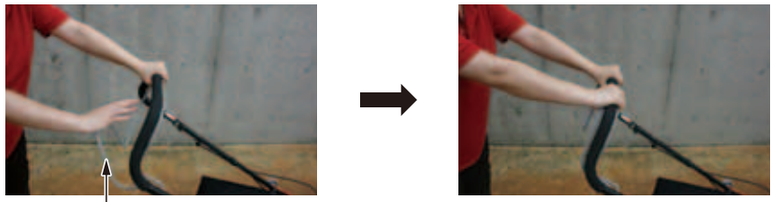
最低出力
最低車速位置
最低刈刃回転数位置

4 刈取り作業

⚠警告

本機からはなれる場合は必ず刈刃クラッチ レバーをはなしてください。

≪自走刈り≫
エンジンを始動し、刈刃の回転が安定したところで、走行クラッチ レバーを握り、刈取り作業を行います。(速度調節は 26 頁参照)



⚠注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、本機の速度に合わせ行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

●方向転換は、走行クラッチ レバーを放し、ハンドルを押し下げながら前輪を少し浮かして行います。前方の飛散物に注意しながら行ってください。

≪手押し刈り≫
エンジンを始動し、刈刃の回転が安定したら本機を手で押して作業します。(このとき走行クラッチ レバーは使用しません。

⚠注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、走らないで行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

⚠警告

急な斜面や起伏の激しいところでは作業しないでください。斜面や起伏のあるところでは本機が安定せず転倒するおそれがあります。

≪斜　面≫

・斜面での芝刈りは上下方向ではなく、横方向（等高線方向）に行ってください。
・斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。
・急な斜面では本機を使用しないでください。

≪起　伏≫

・起伏の多い所での芝刈りは足元に注意してハンドルをしっかりと握り作業をしてください。

5 収納袋の脱着

⚠警告

収納袋の脱着は、必ずエンジンを停止してから行ってください。刈刃カバー内の石などの異物が飛び出し大けがをするおそれがあります。

≪取外し方≫

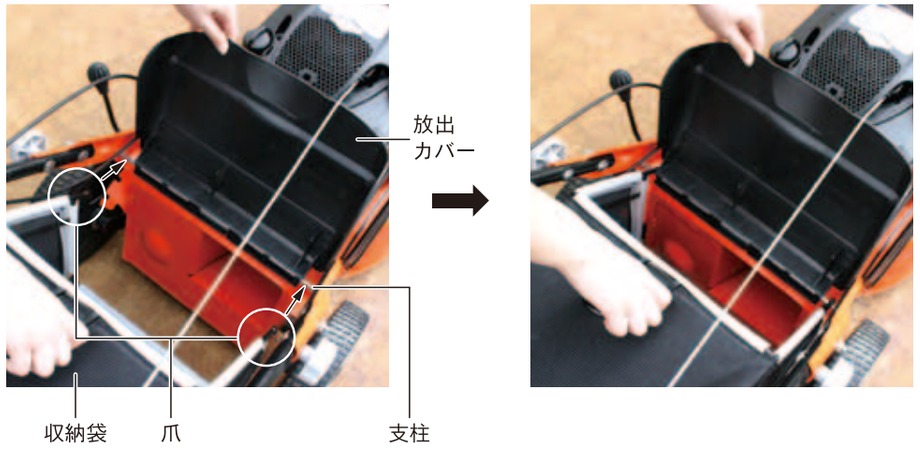
1）本機の放出カバーを開きます。
2）収納袋ハンドルを持ち上げながら後方に引いて取外します。

≪取付け方≫

1）本機の放出カバーを開きます。
2）収納袋のフレーム先端の爪を放出カバーの支柱に引っ掛けます。

⚠警告

・収納袋が確実に取付けられていることを確認してください。作業中に外れると放出物によってケガをするおそれがあります。
・収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷しているときは新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。



取扱いのポイント

収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。
水洗いをし十分に乾燥させて使用してください。

エンジンのとめかた

緊急停止の場合

刈刃クラッチ レバーを放し、元の位置に戻します。

通常停止の場合

1）走行クラッチ レバーを放します。

走行クラッチ レバー

2）刈刃クラッチ レバーを放し、元の位置にします。

刈刃クラッチ レバー

定期手入れを行いましょう

定期点検整備項目

お買いあげいただきました芝刈機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期 (3)		作業前点検	1ヶ月目または初回5時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または200時間運転毎
エンジン オイル	点　検	○				
	交　換		○	○		
エア クリーナ	点　検	○				
	清　掃			○(1)		
	交　換					○
刈刃ボルトの締付け	点　検	○				
刈刃の状態	点　検	○				
収納袋	点検・清掃	○				
本機廻りの点検、各部の清掃		○				
レバーの作動	点　検	○				
エンジンの作動	点　検	○				
点火プラグ	点検・調整				○	
	交　換					○
フライホイール ブレーキ	点　検				○(2)	
走行クラッチ ケーブル	点検・調整		○		○	
エンジン回転調節ケーブル	点検・調整					○(2)
燃焼室	清　掃	250時間運転毎 (2) (4)				
燃料タンク・フィルタ	清　掃					○(2)
燃料チューブ	点　検	2年毎 (必要なら交換) (2)				

(1) ホコリの多い所で使用した場合、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店または、サービス店で実施してください。

(3) 点検時期は表示の期間毎又は運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点検・整備のしかた

⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

≪交換時期≫

初回：1ヶ月目または5時間運転目、以後：3ヶ月運転毎または50時間運転毎

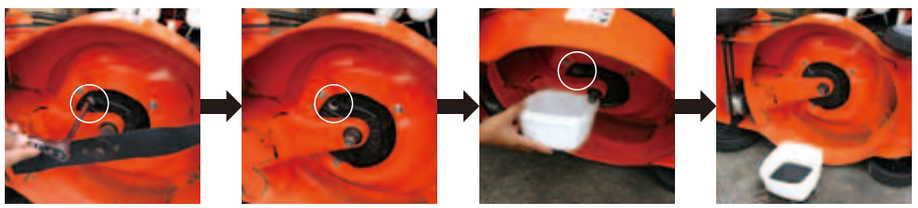
≪推奨オイル≫　18頁参照　　≪規定量≫　0.6ml

≪交換のしかた≫

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどなどをするおそれがあります。

1）エンジンを停止し、刈刃の回転が確実に停止していることを確認してから点火プラグ キャップを取外し車高を一番高くします。
2）本機左側を下に横向きにし、刈刃を取り外します。
3）エンジンオイル排油ボルトを取り外し、トレイをあてがい機体を徐々に水平に戻しオイルを抜きます。



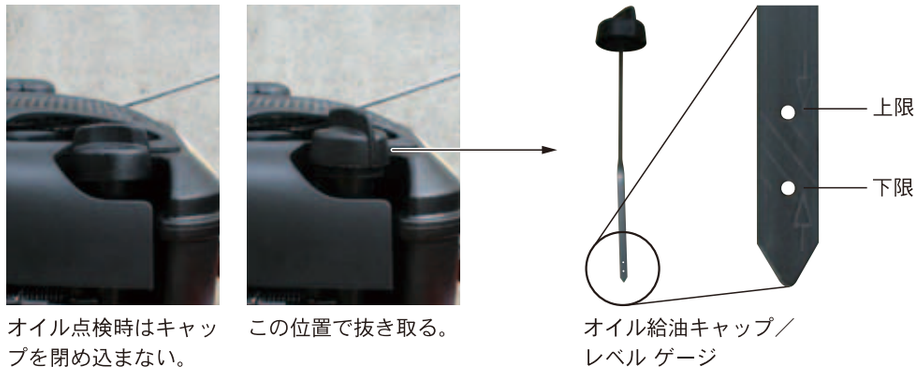
エンジンオイル廃油ボルトを外す　ゆっくり水平に戻し抜けきるまで待つ　廃油を適切に処理する

⚠警告

本機を傾けるとガソリンが洩れる場合があります。
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

3）エンジン オイルが完全に抜けたらトレイを静かに取り出し、本機を元に戻し水平な場所に置いてください。
4）エンジン オイルを給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。18頁参照)
5）注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



オイル点検時はキャップを閉め込まない。　この位置で抜き取る。　オイル給油キャップ／レベル ゲージ

取扱いのポイント

・交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
・オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア クリーナ（空気清浄器）の清掃・交換

空気清浄器が目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

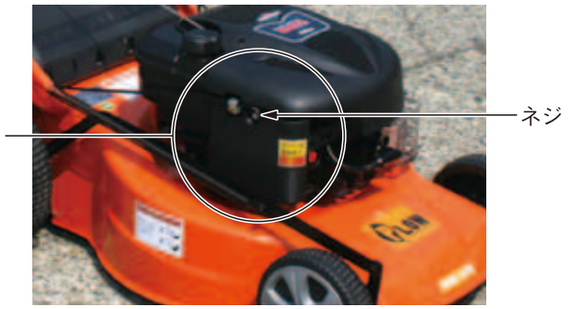
≪清掃時期≫ 3 ヶ月毎または 50 時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は 1 日 1 回または 10 時間運転毎。

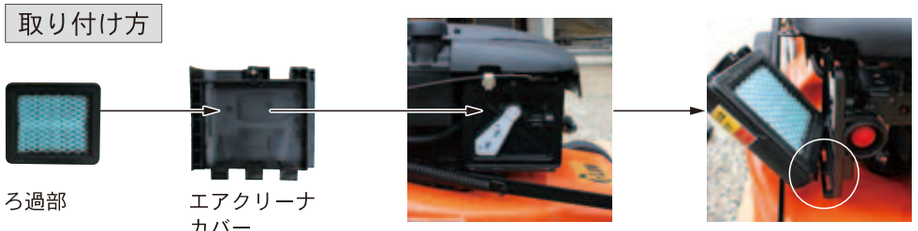
≪清　掃≫ 3 ヶ月毎または 50 時間運転毎

1）エア クリーナ カバーのネジを外し、エア クリーナ ハウジングから取外します。

2）ろ過部の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。



取り付け方



エア クリーナカバーにろ過部を入れ、下部の爪に引っ掛けてきちんとはめる。最後に上部のネジをしっかり取り付ける。

取扱いのポイント

・エア クリーナ カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。

・エア クリーナ カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付けかたが悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響を与えます。

点火プラグの清掃、調整、交換

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当だと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

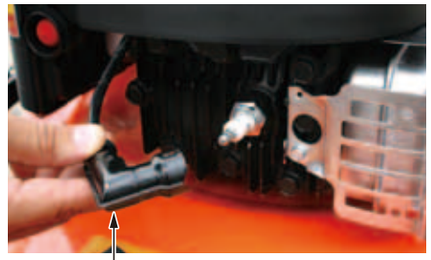
≪清掃時期≫ 6 ヶ月毎または 100 時間運転毎

≪清　掃≫

1）点火プラグ キャップを外し、プラグレンチで点火プラグを取外します。

2）プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

● プラグ クリーナが無いときは、ワイヤブラシで汚れを落としてください。



≪調　整≫

● 側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8mm に調整します。

≪交換時期≫

1 年毎または 200 時間運転毎

≪標準プラグ≫

BR2-LM（NGK）

取扱いのポイント

・故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。

・点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

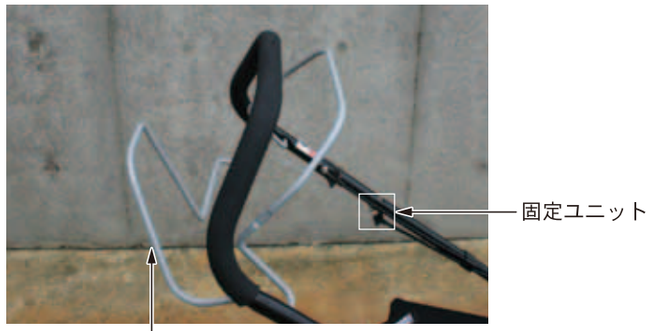
走行クラッチ ケーブルの調整

走行クラッチ ケーブルの調整が正しくないと、クラッチがすべり走行できません。

≪調整時期≫ 初回：1 ヶ月目または 5 時間運転目、以後：6 ヶ月毎または
100 時間運転毎

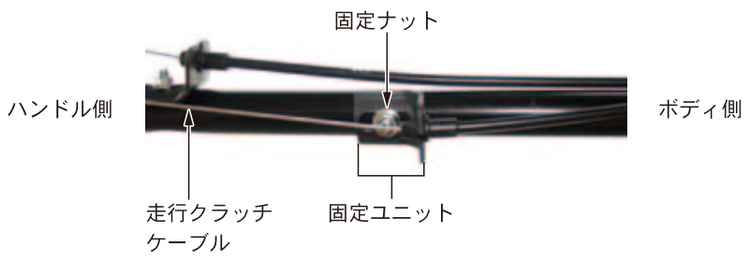
≪調　整≫

1）レバー先端の遊びが 1 ～ 5mm になるように調整します。



2）調整は固定ナットをゆるめ、固定ユニットの取り付け位置で調節します。

ハンドルより → 緩む　　**ボディより → 張る**



3）固定ナットを確実に締付けます。

4）調整後、エンジンを始動し走行クラッチ レバーが正しく動作することを確認してください。走行クラッチ レバーを握ると本機は走行し、放すと止まります。

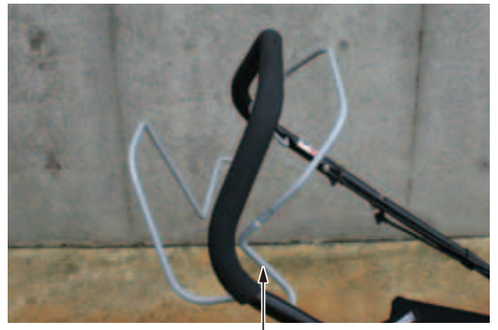
5）上記方法で調整しても走行しない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

刈刃クラッチ レバーの作動点検

フライホイール ブレーキ シューの摩耗を、刈刃クラッチ レバーの遊びの間隔で点検します。

≪点検のしかた≫

刈刃クラッチ レバー先端の遊びが 30 ～ 35mm になっていれば正常です。レバー先端の遊びが規定の範囲内にない場合はお買いあげ販売店にお申しつけください。



取扱いのポイント

フライホイール ブレーキの点検は 6 ヶ月毎または 100 時間運転毎にお買いあげ販売店にお申しつけください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30 日以上使用しないときは、燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

1 燃料を抜いてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください

≪抜き方≫

1）エンジンを停止して、燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内の燃料を専用容器に移してください。電動ポンプは使用しないでください。

2）燃料タンクから燃料を抜き終わりましたら燃料給油キャップを締め、エンジンを始動して (23 頁参照) 残った燃料を使い切って止まるまで運転します。

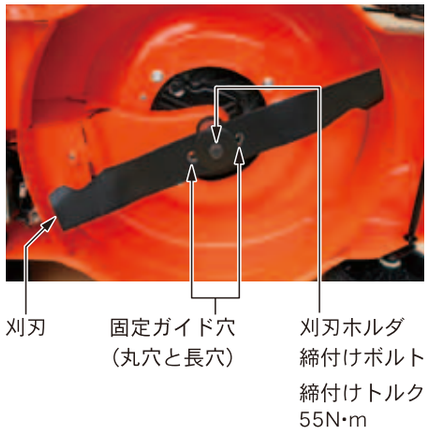
●本機を離れる場合は、必ずエンジンを止めてください。
思わぬ事故を引き起こす場合があります。

3）エンジンの停止を必ず確認し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

2 エンジン オイルを交換してください。(交換方法は 32 頁参照)

3 エア クリーナを清掃してください。(清掃方法は 34 頁参照)

4 本機を左側に傾斜させ、刈刃及び各部を清掃し、締め付けを点検してください。



5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

6 収納袋を取外し、清掃してください。

収納袋が目詰まりをしているときは、水洗いをし、十分に乾燥させてから取付けてください。

7 カバーをかけ、風通しの良い場所に保管してください。

取扱いのポイント

・次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。
・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(3 か月に 1 回新しいオイルと交換)

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1) 始動方法は取扱説明書通りですか？
2) 燃料はありますか？
3) エンジン オイルは規定量ありますか？
4) 点火プラグ キャップは確実に取付けられていますか？
5) 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？
6) 刈刃クラッチ レバーは確実に握っていますか？

⚠注意

本機に異常を感じた場合はただちに作業を中止し、エンジンを停止して各部を点検してください。

1 刈刃クラッチ レバーを放しても刈刃が止まらないときは

- 刈刃クラッチ レバーは確実に停止位置になっていますか？
- 刈刃クラッチ レバー先端部の遊びが 30 ～ 35mm ありますか？
- 刈刃の回転、エンジンが停止するのを待ちます。エンジン停止状態で、お買いあげ販売店にお申しつけください。

2 走行クラッチ レバーを放しても止まらないとき

- 走行クラッチ ケーブルの調整は正しいですか？(36 頁参照) 調整しても異常がある場合はお買いあげ販売店にお申しつけください。

3 芝刈作業時、芝の刈跡が悪いとき

- 刈刃に異常はありませんか？(20、21 頁参照)

4 芝刈作業時、収納袋まわりから芝が吹き出すとき

- 収納袋はきちんと本機に装着されていますか？
- 収納袋はやぶれていませんか？

☆上記項目で調整が必要な場合は、手順に従って調整してください。調整できない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

主要諸元

名　　称	PHG470
全　　長	1,500mm
全　　幅	500mm
全　　高	980mm
刈　　幅	470mm
刈　　高	約15 ～ 70mm(6段階)
収納袋容量	45L
乾燥質量(重量)	30kg

名　　称	B&S 625
形　　式	空冷 4 サイクル サイド バルブ エンジン
排　気　量	190cc
内径×行程	68.3×51.8mm
点火方法	Magnetron Electronic Lgnition System
オイル容量	0.6L
燃料タンク容量	0.8L
点火プラグ	BR2-LM(NGK)

同梱部品の組付けかた

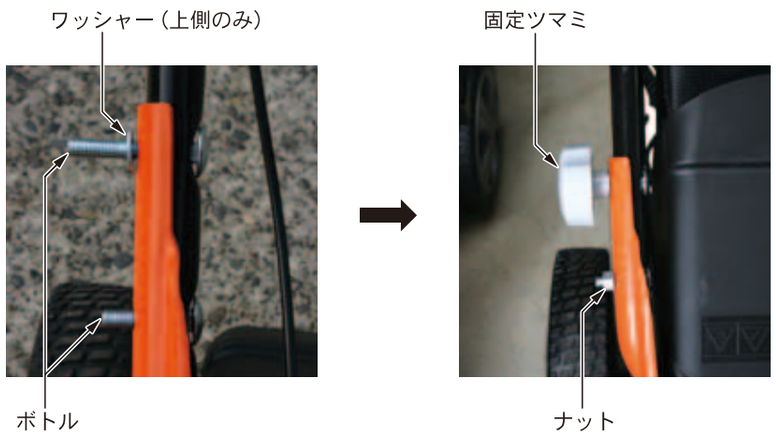
次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。

ハンドルの組付け

1）ハンドルを本体に取付けるまえに、ケーブル（走行クラッチ ケーブルおよび刈刃クラッチ ケーブル、スロットルケーブル）がハンドルの内側を通っていることを確認してください。

2）ハンドルをデッキフレームに沿うように内側にはめ込む。

3）ハンドルとデッキフレームをボトル、ナット、ワッシャー、固定ツマミを使い左右共に固定する。

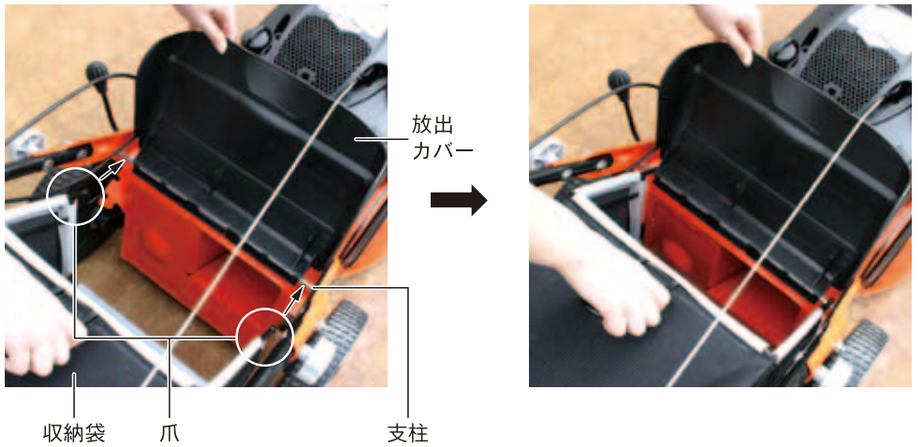


4）ケーブル（走行クラッチ ケーブルおよび刈刃クラッチ ケーブル、スロットルケーブル）を下の写真の位置で固定します。

5）最後に始動グリップをフックにかけます。

収納袋の取付け

1）本機の放出カバーを開きます。
2）収納袋のフレーム先端の爪を放出カバーの支柱に引っ掛けます。



PLOW 製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
PLOW 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、下記のダイヤルでもお受け致します。

株式会社　ホンダウォーク

025-532-2730

受付時間 9:00 ～ 1:00 13:00 ～ 18:00
〒942-0261　新潟県上越市三和区末野新田 338

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

PLOW 製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名